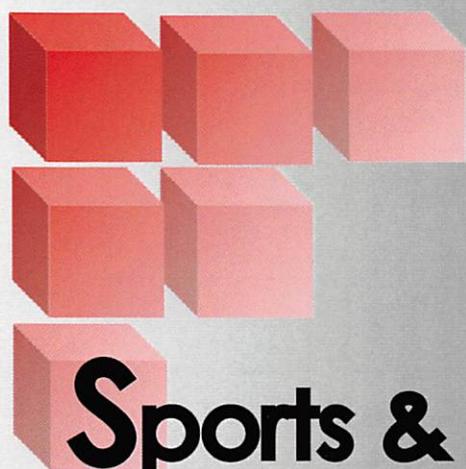


平成 29 年度「暫定的教育予算」

# 体育・スポーツの エキスパート育成プログラム

## 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育



**Sports & Health  
Expert program**



平成29年度「暫定的教育予算」

# 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム 事業報告書

## 目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	05
海外研修（ハンドボール部）	08
海外研修（サッカー部）	09
アスリートサポートプログラム	10
健康運動指導者試験対策プログラム	11
保健体育教員採用試験対策プログラム	12
生涯スポーツ教育実践プログラム	14
キャリア教育プログラム	16
成果一覧	18



スポーツ科学部では、平成 23 年度からスタートした本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に申請し、2 年間に亘り 820 万円の支援を受けることができました。その内容は、平成 22 年度入学生からスタートさせた本学部の新カリキュラムであり、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるよう方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。その新カリキュラムがこのプログラムに非常にマッチングしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」と称して申請し、採択され、たくさんの成果を得ることができました。

その継続 2 年目までを終了した後、平成 25 年度からは「教育推進経費」として 3 年間で 1,174 万円、そして平成 28 年度からは「暫定的教育予算」として 2 年間で 879 万円の支援を受け、ほぼ同様のプログラムを実施させていただきました。すでに、プログラムの定着化とコース色が色濃く出るような成果に繋がっています。

本プログラムは、「アスリート・コーチ育成プログラム」「アスリートサポートプログラム」「保健体育教員採用試験対策プログラム」「健康運動指導者試験対策プログラム」「生涯スポーツ教育実践プログラム」「キャリア教育プログラム」の 6 プログラムで構成されています。スポーツ科学科 4 コースと健康運動科学科 3 コースにマッチングした内容であると同時に、授業（単位）外での内容も加わり、充実したものとなっています。平成 29 年度は、アスリートとしてのいろいろな活躍、グローバル人材育成にも寄与している海外研修、健康運動実践指導者 8 名と健康運動指導士 4 名の合格、そして保健体育教員の 1 次合格が最も多い 21 名で、最終合格は現役 8 名という、支援を受けてから最多の合格者を出すとともにこの報告書から読み取れるさまざまな成果が現われています。さらに、2 年次生対象のキャリア教育の一環としての「ステップアップセミナー」の授業においても、ミニツツペーパー等から成果を窺い知ることができています。これら成果の詳細について、担当者が報告していますので、ご覧ください。

以上のような成果が得られているのも、大学のご理解とご支援並びに学部教育に関わる多くの関係者のご尽力によるものであり、厚く御礼申し上げます。平成 30 年度から支援形態が「学部充実予算」に変わり 200 万円に大幅減額されますが、本プログラムは継続して実施しますので、より一層の内容充実を図るべく精進いたす所存です。益々のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生から新カリキュラムのスタートに伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム ー体育・スポーツのエキスパート育成プログラムー」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。新カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大変大きな効果が認められました。その後、平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。このプログラムは、新カリキュラムの特徴であるコース制と連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

新カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。本学企画の「魅力ある学士課程教育支援プログラム」に本学部の新カリキュラムが非常にマッチしたものであると考え、「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」として申請し、これまでの 6 年間で多くの成果を得ることができました。今年度で継続 7 年目ですが、これまでと同様のプログラムを実施しました。それぞれのプログラムでは、コース色が色濃く出て、期待以上の成果がありました。

アスリート・コーチ育成プログラムでは、前期開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」の中で 4 回、オープンキャンパス時に 1 回の計 5 回、特別講師に講義をしていただきました。講義への参加は、授業登録者だけでなく登録者以外も含めて、250 名もの学生が受講しました。後期には、3 年次生対象の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」の単位とも連動させ、ドイツにハンドボール部の学生 1 名、スペインにサッカー部女子の学生 1 名が海外研修に行き、多くの成果を得て帰ってきました。

アスリートサポートプログラムのバイオメカニクスサポートでは、日本体育学会会長の深代千之氏を招聘して講演を行いました。スポーツにおける科学の役割とは、「動作の本質」を探り、成功への因果関係を見つけ出すこと、といった内容で、学生だけでなく教員も含め 100 名程度の参加者があり、フロアからも多くの質問があり、議論を深めることができました。トレーナーサポートでは、昨年同様、トレーニング室内のコンディショニングルームで福岡大学の学生に対して、テーピングやストレッチング、マッサージといったメディカルサポートを行いました。学生トレーナーの勉強会などを継続して行ったことで、コンディショニングルームの運営体制が確立されるようになりましたが、新設された総合体育館内のトレーナールームの連携と有効活用が今後の課題となりました。

保健体育体教員採用試験対策プログラムでは、4年次生の保健体育教員コースの学生36名が「保健体育教職演習Ⅱ」を受講し、3年次生の同コースの学生41名が「保健体育教職演習Ⅰ」を受講しました。3、4年生の受講者を対象に、講師を招聘し、小論文作成講座を5回開講しました。4月～7月にかけて1次試験対策講座および実技練習会を実施し、合格者には、集団討論練習会などの2次試験対策講座を行いました。その結果、小学校教員を含め、21名もの1次試験合格者を出しました。そのうち2次試験合格者は8名で、保健体育教員コースの合格率は、これまでで最も高い23.3%（7名／30名）でありました。1次試験合格者数および2次試験合格者数は、このプログラムを始めてから最も多い人数で、プログラムの成果が現われたものだと思います。その他、2017年教員採用試験対策報告書の作成およびデータベース化を行いました。

健康運動指導者試験対策プログラムでは、4年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、健康運動指導士の試験対策の「健康運動指導演習Ⅱ」を通年の集中授業で行い、4名（12名受験）名の学生が合格し、33.3%（全国平均：57.1%）の合格率でした。後期に3年次生の健康運動指導者コースの学生を対象に、「健康運動指導演習Ⅰ」の授業の中で、3回の実技試験対策講座講（外部の講師）と筆記試験対策を実施し、健康運動実践指導者試験に8名（11名受験）の学生が合格し、72.7%（全国平均55.1）%と高い合格率となりました。

生涯スポーツ教育実践プログラムでは、同志社中学校の沼田氏を講師として招聘し、「魅力ある授業と学級・学校経営！」というテーマで講演いただいた。生涯スポーツ教育コースおよび保健体育教員コースの学生18名、教員7名が参加し、魅力ある中学校づくりの取り組みに多くの学生が、興味と刺激を抱きました。

キャリア教育プログラムでは、昨年同様2年次生318名を対象にした「ステップアップセミナー」において、外部講師（消防士や中学校教諭など）およびスポーツ科学部の学生（JICAとのボランティア連携事業経験者、企業内定取得者、教員採用試験合格者など）を招いてキャリア教育を行いました。学生は、スポーツに関連する職業の講師や教員採用試験合格者の講義には、真剣な態度で受講しており、2年次から就職に対する意識づけが高まったと考えられます。

最後になりましたが、本プログラムを長い期間継続できたのは、大学のご理解ならびにご支援と学部教育にかかわる多くの関係者の方々のおかげでございます。皆様方に感謝するとともに厚くお礼申し上げます。

本プログラムは、平成30年度は「学部教育充実予算」が大幅に削減され、プログラムのいくつかは縮小されますが、スポーツ科学部の教育的効果は高く、学部の魅力づくりに大きく貢献しておりますので、本プログラムの継続を強く申請しております。平成30年度以降も本プログラムが継続されるならば、より一層の内容充実を図るべく精進いたす所存ですので、ますますのご支援を賜りますようお願いいたします。

## プログラム概要

### 目標と特色

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした新カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格あるいは卒後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティクトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材育成に寄与できる。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル & バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。

### プログラムスタッフ

- |   |  |
|---|--|
| ◇統括 田中 守  | ◇コーディネーター 米沢利広                                       |
| ◇アスリート・コーチ育成プログラム<br>乾 真寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純<br>田口晴康 柿本真弓 小牟礼育夫<br>田場昭一郎 坂本道人 | ◇アスリートサポートプログラム<br>布目寛幸 川中健太郎 下園博信<br>秀泰二郎 泉原嘉郎 田村雄志 |
| ◇保健体育教員採用試験対策プログラム<br>柿山哲治 梅田保人 今村律子                                      | ◇健康運動指導者試験対策プログラム<br>桧垣靖樹 山口幸生 川中健太郎                 |
| ◇生涯スポーツ教育実践プログラム<br>築山泰典 藤井雅人   | ◇キャリア教育プログラム<br>坂本道人 野口安忠 柿本真弓                       |
| ◇会計 吉武行寛  |  |

#### スポーツ科学科 推奨コース

■アスリート・コーチコース  
「ピークパフォーマンス演習Ⅰ・Ⅱ」「トップアスリートコーチ論」「コーチ法演習・実習」など

■トレーナーコース  
「スポーツマッサージ」「アスレティックリハビリテーション」「トレーナー実習」など

■保健体育教員コース  
「教職事前実習」「保健教材演習」「保健体育教職演習Ⅰ・Ⅱ」など

■生涯スポーツ教育コース  
「野外教育論」「レクリエーション演習」「アダプテッドスポーツ演習」など

■健康運動指導者コース  
「健康運動指導演習Ⅰ・Ⅱ」「運動療法・処方」「フィットネス実習」など

#### 健康運動科学科 推奨コース

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパートの育成プログラム」は、7年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」3ヶ年を合わせると、計10年間継続されてきたことになる。

プログラム当初の目標は、競技面での実績を高めることであり、世界的スケールで活躍する一流アスリートを大学にお招きし、その貴重な経験談を定期的に聞ける場を提供することであった。そして、日本トップレベルを目指す志の高い学生を海外研修に派遣し、九州内や国内では経験できない環境に身をおくことで、高いモチベーションや挑戦する心を刺激することであった。

この継続した取り組みの成果により、日本国内のトップレベルで活躍する福大生アスリートの数は、飛躍的に増加し、全国ベスト8以上の入賞者は、プログラム開始前に比べて1.5倍超となっている。

2年次生に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に計4回、オープンキャンパス特別講義に1回の計5回、外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談をお聞きする機会を設けている。来額して頂いた5名の著名なトップアスリートの方々からは、壁に挑み、突破するためのヒントや取り組み方などを熱心にご教授いただきました。学生たちの関心度も強く、講義への出席状況も良好で、授業後に提出するミニツッペーパーの感想文からも学生各自の心に大きく響くものがあることがわかる。

3年次開講の「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」では、年々海外研修を希望する学生が増加してきており、本年度も女子サッカー、ハンドボール部から学生たちが海外へと挑戦の場を広げていった。その成果は、帰国後に現役学生たちへとフィードバックされ、ハイレベルな環境で実践的なトレーニングを経験することが、いかに人を成長させるか？ということをもって実証してくれている。

研修を終えた学生は、帰国後のチームの主力選手として活躍するだけでなく、卒業後には、プロスポーツ、実業団リーグ、全日本選手権など、活躍のステージを上げ、スケールアップした姿を見せてくれている。

これからも「九州の雄」にあまんじることなく、目標水準を高く保ち、世界的なスケールで活躍できる人間性豊かなトップアスリートを育成することが、本プログラムの使命であると考えている。

プログラムを実施するにあたり、ご支援、ご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。「福岡発、日本一経由、2020東京五輪、世界行!!」福大生アスリートの活躍に、熱いご声援を宜しくお願い申し上げます。

## ピークパフォーマンス演習Ⅰ セミナー講師紹介

齊藤 和己（さいとう かずみ）元プロ野球選手（福岡ソフトバンクホークス）

1995年 東京都高等学校からドラフト1位指名で福岡ダイエーホークスへ入団

2003年 ロッテ戦で初の開幕投手を務め、勝利投手となる

→最多勝・最優秀防御率・最高勝率・ベストナイン・沢村賞などの  
タイトルを獲得、チームのリーグ優勝、日本一に貢献

2006年 日本プロ野球史上7人目の投手五冠王に輝く

2014年 福岡を拠点にTVQ九州放送の野球解説者と西日本スポーツの専属  
評論家として活動



(2017年5月10日開催)

窪田 邦彦（くぼた くにひこ）プロバスケットボールチーム コンディショニングコーチ

静岡大学—筑波大学大学院（体育研究科）修了後

→プロ女子バスケットボールチームのコンディショニング  
コーチを務める。

2004年 アスリート専用『ベストコンディショニングジム』を開設

2012年 5年間バスケットボール女子日本代表ストレンクス&コンディショ  
ニングコーチを務める。『RIZING ZEPHYR FUKUOKA』ストレング  
コーチに就任

（2017年5月17日開催）



永田 睦子（ながた むつこ）元バスケット日本代表選手 バスケットボールコーチ

1996年 アトランタオリンピック出場（第7位）

1998年 アジア競技大会（@タイ）で優勝

1995～ <シャンソン化粧品>

2006年 Wリーグ&日本リーグMVP、ベスト5、得点王、リバウンド王、  
年間ベスト5数々のタイトルを獲得し、引退後、テレビ解説者と  
して活動中

（2017年5月17日開催）



桑水流 裕策（くわする ゆうさく）7人制ラグビー日本選手

トップリーグコカ・コーラレッドスパークス所属

2004年 鹿児島工業高校卒業後、福岡大学に入る

2009年 大学卒業後、ラグビーワールドカップセブンズ2009の7人制日本  
代表に選ばれる

2012年 5月5日に行われたアジア5カ国対抗2012UAE戦で日本代表初  
キャップを獲得

2014年 アジア大会では7人制日本代表として金メダル獲得に貢献

2016年 リオデジャネイロオリンピック出場→初めて採用された7人制ラグ  
ビーの日本代表主将として出場し、ニュージーランドを破るなど4  
位に入る健闘を見せた

（2017年6月7日開催）



藤井 潤（ふじい じゅん）アビスパ福岡 ホームタウンコーチ

山口県立光高等学校出身→福岡大学スポーツ科学部→福岡大学スポーツ科学部副手（教育職員）  
その後、アビスパ福岡のコーチを務める

草野 剛（くさの つよし）ラッキーストライカーズ福岡 ブラインドサッカー選手

ラッキーストライカーズ福岡（ブラインドサッカー選手）  
ラッキーストライカーズ福岡は、2004年のチーム発足から市内を中心に活動し、Jリーグ所属のアビスパ福岡による支援の下、サッカーの競技性を追求している  
フィジカルと堅実な守備で上位進出を目指すチーム（チーム内役職：キャプテン）

（2017年6月14日開催）



萩原 智子（はぎわら ともこ）元競泳選手

日本の元水泳選手、スポーツコメンテーター、タレント  
現役時代は得意種目の背泳ぎを中心に自由形や個人メドレーなども手掛け、日本選手権にて史上初の個人4冠を達成  
2000年 シドニーオリンピック女子競泳日本代表  
現役引退後はスポーツコメンテーター・タレントなどとして活動

（2017年8月5日 オープンキャンパス同時開催）



## 受講生レポート

（窪田さん・永田さんの話より）

・斉藤さんが座右の銘にされている、「一瞬に生きる」という言葉のように、一瞬一瞬、その時を大切にしていき、自分が競技を終えた後に後悔しないようにしていきたい。

（斉藤さんの話より）

・チームにやる気のない人がいればチームの雰囲気も悪くなる。自分が強くなるために、チームが強くなるために、一人一人の高い意識を持つことが大切であり、気持ちのコントロールが重要である。

（藤井さん・草野さんの話より）

・自分は、目も見えて何も不自由なく生活できている立場なのに、人や環境のせいにして、諦めているのではないかと考えさせられた。これからは自分の限界を越えて、できなくてもすぐに諦めず精一杯やっていきたい。

## 海外研修レポート（ハンドボール部／体育・スポーツのエキスパート育成プログラム）

### <実習責任者：田中 守>

競技トップレベルでの国内外研修を目的とした「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」で、今回ハンドボールとして初めてドイツでの海外研修の機会を得させていただきました。本場ドイツのハンドボールレベルだけでなく、スポーツや生活等さまざまな文化の違いにも触れ、貴重な経験ができたと思われます。大学からの支援もいただきながらこのような研修ができたことに感謝申し上げ、津山自身の成長も期待してご報告いたします。

### <スポーツ科学部 4年 津山 弘巳>

今回の研修ではドイツに3月1日から13日まで行ってきました。研修の内容としては、5部と4部のチームにトライアウトを兼ねた練習参加でした。日本で4部5部と聞くと、レベルが低いと感じるかもしれませんが、やはりフィジカル面、意識の違いという面では日本よりはるかに上でした。ドイツの選手は積極的にコミュニケーションを取るし、自分の意見を強く持っていました。また途中でチームから落とされる選手もあり、下部リーグでも常に競い合う環境であることを痛感しました。スポーツのあり方も違いがあり、5部のチームの試合に観客が400人近く集まり、料理や飲み物を飲んで楽しんでいました。試合だけを見に来るといふより、その場の時間を楽しんでいるように見え日本とドイツの文化の違いも知ることができました。

1部のブンデスリーガの試合も見ましたが、世界最高峰のプレーはもちろんのこと観客を楽しませるための工夫としてアリーナ内での飲食の充実、選手紹介の派手な演出がされていて、そこも大きな違いだと思いました。ただレベルが高いから観客が集まっているわけではないと思いました。この2週間でドイツをほとんど1人で行動したので、自分と向き合えたことが一番の収穫であったと思います。コミュニケーションを取る難しさもそうですが、自分の覚悟がどれほどなのかを知ることができました。これをこれからの人生に生かし、福岡大学に少しでも還元していきたいと思えます。



## 海外研修レポート（サッカー部／ピークパフォーマンス演習Ⅱ）

### <実習責任者：伊賀崇人>

今回は、プログラム始まって以来、初の女子サッカー部員をスペインへ派遣した。男子サッカーは、世界トップレベルであるが、女子サッカーも近年急成長してきており、ヨーロッパ選手権ベスト 8、U17 W杯 3 位など世界のトップになりつつある。また、サッカーが「文化」として浸透しており、男子とともに女子の競技人口・チーム数は多く、リーグの構成なども整備されている。今回派遣した三宅由梨亜は全日本大学選抜 B(西日本選抜)に選出されるなど、将来が期待される選手であり、このプログラムで女子サッカー部員を派遣したのは初の試みであった。まだまだ弱小である女子サッカー部にこのような貴重な機会をくださった皆様に感謝し、選手一同さらに精進する所存である。彼女には、この経験を女子サッカー部ならびに学部全体へと還元し、今後の更なる成長に期待したい。



### <スポーツ科学部 2年 三宅 由梨亜>

私は、3月12日から22日までの10日間、スペイン女子リーグの最高峰である1部リーグに所属する「アトレティコ・マドリード」と「ラーヨ・バジェカーノ」の2チームのトレーニングに参加しました。

アトレティコ・マドリードは、FCバルセロナとともにスペインリーグの2強といわれており、今シーズンも優勝争いをしている強豪チームです。女子のチームはトップカテゴリーにA(トップ)、B(セカンド)、Cの3チーム、その下に高校年代、中学年代、小学年代のチームがあり、一貫指導が行われていました。私は、BとCのチームの練習に参加しました。トレーニング内容は、ポゼッションを中心として構成されており、次々と条件が課せられる難しいものからシンプルなものまで、飽きることのない練習メニューが多く、楽しくかつ真剣に取り組むことができました。また、カテゴリーのレベルが高いと、トレーニングのレベルや強度も高く、チーム全体の雰囲気も意識が高いと感じました。アトレティコでは、どのカテゴリーにも英語が話せるスタッフや選手が、練習メニューの説明を細かく通訳してくれたため、練習内容を十分理解して取り組みました。更には、練習外以外の時間帯でのコミュニケーションも多く取れ、たくさんの人と話すことによって友達も作ることもできました。次に、ラーヨ・バジェカーノで、私はBチームの練習に参加しましたが、主に攻撃のパターン練習が多く、アトレティコでの攻守の切り替えや球際の厳しさはなく、物足りなさを感じました。また、スペイン語のみであったため、練習の意図や戦術を理解するのが困難でした。しかしながら、このような環境でも何かを得るために前向きにトライすることを心掛け、チームメイトに助けられながら充実したトレーニングを行うことができました。

私はこの研修で「後悔は絶対に取り戻せない。失敗は必ず取り戻せる。」ということ学びました。夢であるプロサッカー選手を目指し、海外の舞台でも活躍するためには、今後の自分に何ができ、何をすべきか、改めて考える機会になりました。この研修を通して、サッカーはもちろん、人としても大きく成長できた場となりました。この経験をもっと周囲に伝え、この研修でサポートしてくださった皆様、心から喜んで後押ししてくれた両親に感謝し、今後活躍ができるようチームメイトと切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思えます。

平成 29 年 10 月 30 日午後 4 : 30 分より 12 号館 1221 教室においてアスリートサポート（バイオメカニクスサポート）の講演会を行った。

当日は、東京大学大学院教授であり、日本体育学会会長、日本バイオメカニクス学会会長を務める深代千之氏に「スポーツバイオメカニクスの応用」として講演いただいた。深代氏は、陸上競技の競技力向上のためのスポーツバイオメカニクス研究に、日本のリーダーとして貢献しており、とりわけ、北京とリオ五輪の陸上男子 400m リレーのメダル獲得は、長年のサポートの賜物ともいえる。主な著書には、<知的>スポーツのすすめ・スポーツ動作の科学：東大出版会、スポーツができる子どもは勉強もできる：幻冬舎、日本人は 100m を 9 秒台で走れるか：祥伝社新書などがあり、100m を 9 秒台で走る日本人選手（桐生祥秀）が誕生したばかりということもあり、非常にタイムリーな講演となった。

講演の内容では、これまでスポーツパフォーマンスを高める方策は、選手やコーチが独自で探しており、時に大きな成功を生むものの、間違った方策をとってしまい、しかもそれに気づかない危険性があった。ここにスポーツ科学を利用することで、最も理にかなった方策を示すことができるようになったという点を強調されていることが強く印象に残った。

当日は、100 名余の参加者があり、講演後にはフロアーからの多くの質問があった。中には高校生時代に個人的に相談にのっていただいた経験を持つ者もあり、深代氏の地道な活動の一端とその人柄を感じさせる討論となった。

## 受講生レポート

様々な著書を出版され、テレビ出演もされている深代先生の話をお聞きすることができことを光栄に思います。スポーツ動作を分析し、数値として提示することにより事実に基づいた選手の動きを知ることができる。これを現場に生かすことができれば選手のパフォーマンス向上の一手を担うこととなるに違いない。しかし、コーチの経験による指導と研究から得られたデータに差異が生じることもある。よって、選手のパフォーマンスをよりよく向上させるには、コーチの目、研究者の目の両者をアウフヘーベン（矛盾するものを更に高い段階で統一し解決すること）させた指導が必要であると感じた。



今回の講演の中で深代先生は、スポーツにおける科学の役割とは、万人に共通する「動作の本質」を探り、成功への因果関係を見つけ出すことであると話されていた。また、選手の持つ可能性を最大限に引き出すためには選手・現場コーチ・科学者が一つのチームになることが最も重要なことであり、いかにして良い人間関係を築けるかが鍵となるそうだ。私が最も驚いたのは、日本のスポーツ科学がアメリカより発展しているということだ。世界でもトップレベルだということ。日本のスポーツ科学研究がもっと実践的に現場に広まることで人々の生活がより豊かに、また精一杯スポーツに取り組むことができる人が増えれば、と感じた。

# 健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 檜垣 靖樹

Sports & Health  
Expert program

## <プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、実技試験および筆記試験対策を下記日程および健康運動指導演習の授業で実施した。特別講師として、健康運動実践指導者の実技試験指導については中山 藍氏（スタジオパラディソ、健康運動指導士）をお願いした。

本プログラムの成果として、平成 29 年度健康運動実践指導者認定試験には 11 名が受験し、8 名が合格した（全国の合格率：57.1%）。第 137 回健康運動指導士認定試験には 4 年次生 12 名が受験し、4 名が合格した（全体の合格率：55.1%）。

## <実施日程>

平成 29 年 10 月 30 日、11 月 13 日、11 月 20 日：実技試験対策講座

## 合格者レポート

### 健康運動科学科 3 年 本田 紘基（平成 29 年度健康運動実践指導者 合格）

本試験対策プログラムは、私にとってとても安心感をもって資格取得までのアプローチをしてくれるものでした。

このプログラムを受講するまでは、実技試験の内容や試験の難易度についての不安が少なからずありました。しかし、このプログラムを進めていくにつれ、この不安は解消されました。実技試験については、外部から先生にお越し頂き、丁寧に指導していただきました。また、この資格を実際に取得した先輩方にサポートしていただけたのが、自信につながりました。筆記試験では、分野ごととにかく問題を解くことで着実に自分の力がついていきました。

今後は、健康運動指導士の資格取得に向け勉強を続けるとともに、この資格を現場で活かせるように積極的に活動していきます。また、健康運動実践指導者の資格を目指す方のサポートもしていきたいです。



### 健康運動科学科 3 年 田川 茉理（平成 29 年度健康運動実践指導者 合格）

本試験対策プログラムは、私にとって合格への道標でした。資格取得のためにはエアロビックダンスと筆記試験があります。実技試験のエアロビックダンスはあまりしたことがなく、ましてやリードをしなければならないのでとても不安でした。しかし授業でキューイングの仕方や実際のテスト形式、コツなどを専門の方や先輩方に教えて頂き、また友達と練習をすることで自信を持つことができました。筆記試験対策としては授業内容の予習と復習をすることで理解が増し、効率よく勉強することができました。毎回の授業を重ねるたび上達を実感しとても充実したプログラムを受けることができました。

今後は健康運動実践指導者を目指す後輩の為にサポートをし、個人としては健康運動指導士の合格のため頑張りたいと思います。



# 保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 柿山 哲治

Sports & Health  
Expert program

深江久嗣教授の退任により、2017年4月より梅田保人教授が着任された。2017年度の教員採用試験1次合格者は福岡県小学校1名・中学校4名、福岡市中学校15名、長崎県小学校1名の計21名で、2次試験合格者は福岡県中学校4名、福岡市中学校4名（2自治体合格者を含む）であった。したがって、保健体育教員コース30名中7名の合格者（合格率：23.3%）であった。本年度は保健体育教員コースの学生が自主的に実技試験対策講座を早い段階から助手・助教の先生方に依頼し、器械運動（森井助教、花田助手）、水泳（山口助手）、陸上競技（山崎助手）、バスケットボール（田方助教）、バレーボール（高山助手）、柔道（福岡助手）、剣道（渡邊助教・大山助手）、ダンス（森本助手）の実技練習会を半年間に渡って実施した。また、福岡県教員採用試験受験の希望者には梅田教授、柿山教授・今村准教授による集団討論練習会を7月に実施した。さらに、1次試験合格者には、梅田教授、柿山教授・今村准教授による個人面接および模擬授業練習会を8月に実施した。なお、福岡市中学校は2次試験で実技試験が課されるため、器械運動（森井助教、花田助手）、水泳（山口助手）、陸上競技（山崎助手）、ダンス（森本助手）、バスケットボール（田方助教）の実技練習会を実施した。なお、教員採用試験1次および2次試験合格者に自治体別教員採用試験対策報告書（福岡県、福岡市）をパワーポイントで作成するよう依頼し、データベース化を図った。

## プログラム概要

- ・保健体育教職演習（保健体育教員コース学生対象に実施）＜担当：梅田教授、今村准教授＞  
保健体育教職演習Ⅰ（3年後期）41名、保健体育教職演習Ⅱ（4年後期）36名の履修であった。  
保健体育教職演習Ⅰにて、福岡県体育研究所 秋田瑞弘先生を招へいし、現在の保健体育の動向や学校現場の状況についてご講演頂いた。  
また、保健体育教職演習ⅠおよびⅡの受講者を対象に、中島由美子先生（国語）を招へいし、6月～7月にかけて5回の小論文作成講座を開講した。
- ・一次試験対策講座および二次試験対策講座＜担当：梅田教授＞  
希望者には4～7月に一次試験対策講座を実施し、一次試験合格者に二次試験対策を行った。
- ・平成29年度教員採用試験実技練習会（7月に実施）＜担当：森井助教、田方助教、花田助手、山口助手、山崎助手、高山助手、福岡助手、森本助手、大山助手＞  
助教・助手の先生方の空き時間を利用して、6月から7月にかけて実技試験練習会を各種目2～3回ずつ行った。
- ・福岡県教員採用試験集団討論練習会＜担当：梅田教授、柿山教授、今村准教授＞  
福岡県教員採用試験を受験する希望者に対し、集団討論練習会を2回行った。
- ・福岡市中学校教員採用試験（2次）実技練習会＜担当：今村准教授＞  
ダンス（今村准教授、森本助手）の練習会を個別に行った。
- ・2017年度教員採用試験対策報告書＜担当：柿山教授、今村准教授＞  
福岡県中学校、福岡市中学校教員採用試験対策報告書のデータベース化を行った。
- ・2018年度教員採用試験（2017年7月実施）説明会（11月17日）＜担当：今村律子准教授＞  
東京アカデミーから講師を招聘し、3年生以下を対象に29年度採用試験の動向を説明頂いた。

・2017年度 公立学校教員採用試験合格者

日高由貴、秋吉美穂、里村 昭、小野琢郎（福岡県中学校）

松尾美沙、小野琢郎、溝上雄大、深川功樹（福岡市中学校）

## 合格者レポート

### スポーツ科学科4年 秋吉 美穂（福岡県中学校保健体育）

私は3年生の夏から、教員採用試験の勉強を始めました。福岡県の筆記試験は専門教養・教職教養・一般教養があります。まずは、取り組みやすい専門教養から取りかかりました。次に、教職教養・一般教養と学習をして行き、基礎問題→練習問題→過去問題→応用問題と段階的に学習を進めました。また、同じ問題を二回以上は解くように心がけました。

実技対策は、3年生の冬より始めました。都合が合う日には必ず参加し、それが気分転換にもなっていました。毎日の勉強の積み重ねはもちろん大切ですが、3年生はまだまだ現役で部活動を多くの方がしていると思います。私が何より大切にしてきたことが授業でした。授業内で集中していかに理解をするかどうかで、効率が全く変わってきます。日々の授業とそれを補う勉強を両立させて、合格を勝ち取ってください。



### スポーツ科学科4年 溝上 雄大（福岡市中学校保健体育）

私は、3年の夏休みから教員採用試験に向けて勉強を始めました。まずは、受験する自治体について調べました。自分の受験する自治体がどのような目標を掲げ教育を行っているのかを知ることは大切なことだと思います。筆記試験に向けては、問題の傾向を調べました。各自治体によって出題方法など傾向があります。まずは、それをしっかり把握し、基本的な問題を中心にできるだけ多くの問題を解くことを心掛けました。筆記試験においては、人それぞれ取り組み方が異なると思います。自分がやっていることを信じてやり続けることが大切です。

3、4年生は部活動も忙しく時間の確保が難しいとは思いますが、授業・空き時間を有効に使って自分のリズムで試験の対策に取り組んでください。今の努力が試験の時の自信につながります。大変だとは思いますが、試験で全力を出せるように頑張ってください。



日時：平成 29 年 7 月 11 日 (火) 16:30～18:00

場所：第 2 記念会堂 1222 教室

報告者：築山泰典

参加者：学生 18 名 教員 7 名

同志社中学校の教頭である沼田和也氏に、「魅力ある授業と学級・学校運営！」とのテーマで講演頂いた。沼田氏は現場教員としても、生徒の主体性を重視した授業展開を長年実践され、また教頭就任後は学校全体でそのような取り組みを展開、学校のレイアウトにまで発展されている。また、積極的に海外の子どもたちや大学生とも、生徒の交流を進められ、魅力ある中学校づくりに邁進されている様子を伝えて下さった。

## 受講生レポート

### 健康運動科学科 3 年 上地 悠理花

同志社中学校の教頭である沼田先生のお話と、マシュマロチャレンジを体験して自分の考える視野が広がりました。沼田先生のお話の中で、印象に残ったことは AI、人工知能についてとタイムマネジメントについてです。人工知能については、私たちが生きている間に、人工知能が人間を超えて世の中を作っていくという事を聞いて、実際にそうなることを考えるととても恐ろしく、そのようにならないために、今私たちにできることはなにかあるのだろうと考えました。実際にスーパーのレジが自動化されている店舗も増え、今まで当たり前人間が行っていた仕事や作業をロボットが行なうようになり、あまり人間が必要とされないことも増えてきました。便利になっていく世の中ですが、そのまま便利になり続けて良いのかという疑問も持ちました。そのような現実を知ると、便利になっていく反面、将来は私たちに仕事なくなるのではないかと不安になり、自分の知らない間に世の中が動いているのだと思いました。将来今の子どもたちの 65 パーセントが現在存在しない職業に就くと予想されており、現在存在しない職業はどのような職業なのか気になりました。

また、同志社中学校の方針や、先生方の前向きな指導方法などに驚きました。同志社中学校は授業開始時間、休み時間、授業終了時間の合図がなく自分達で時間を管理しノーチャイムでの学校生活を送っています。生徒は自然と自己管理もできるようになり、とてもいいなと思いました。また、多くの中学校では担当の先生がそれぞれの教室に出向いて授業を行なうスタイルですが、同志社中学校は生徒が毎授業、授業がある教室へ移動して授業を行なうスタイルをとっていました。また、各教科の部屋は、掲示物や教材などを上手に使い、その教科らしさや、その授業を行いやすい教室の雰囲気作りを先生方で徹底しており、生徒も授業へのモチベーションが高まるだろうと思いました。

最後に、マシュマロチャレンジを体験して相手の意見を聞くこと、自分の意見を言うこと、そしてひとつの答えを出すことの難しさを感じました。沼田先生のお話でポイントとなるのが、体罰や王国をつくらうとする先生はよくないこと、コーチングについて、たくさん新しい言葉にチャレンジし語学力をつけること、人とつながる力についてでした。このようなお話を聞くことができ、自分ができることをやろうという考えから、やりたいことをできるように努力しようという考えが広がりました。

## 受講者レポート

### スポーツ科学科3年 保坂 一夢

同志社中学校の教頭の沼田和也先生の話聴いて、同志社中学校は保守的な教育ではなく斬新で子どもたちが大きな視野を持てるような教育を行なっているなと思いました。勉強を楽しいと思わせるような工夫を沢山聞くことができました。例えば同志社中学校では教科担当の先生が教室に来て授業をするのではなく、クラス自体が移動教室でその教科の教室に行くという方法をとっていることや、チャイムを鳴らさず時計を見て行動ができるようにすることなど、自主性を尊重した学級作りをしていると感じました。社会に出てやらなければいけない当たり前のことを中学のうちから身に付けておく意図がみられ、生徒が社会に出てはじめての生活でつまづかないようにという先生の想いを感じました。他にも感性を豊かにするために、生徒の創作物などは必ず見える所におくなど、アクティブでクリエイティブな雰囲気作りを徹底していると思いました。

自分が面白いと思った同志社の取り組みで STEAM キャンプがありました。そのキャンプでは同志社中学の生徒がさまざまな国で、実社会に近い環境の授業を受け、言葉の壁や、その環境で作れるもの考えるなど様々な体験活動を通してコミュニケーション能力が向上し、各国の文化・人間性のちがいなど若いときから文化的な違いを肌で感じるができるものです。活動後は大きな視野を持つことができるようになり、人間的に幅ができるというものでした。個人的にとっても興味深かったです。

マシュマロチャレンジは制限時間もありとても難しかったです。同じチームの仲間とコミュニケーションをとりながら、作業しなければ間に合わないし、良いアイデアが出ないと高いタワーを作ることができないので、時間の使い方が難しいと感じました。マシュマロチャレンジを高い位置で成功させるのは子どもたちが多く、子どもは考え方が柔軟だと感じました。柔軟な考え方という面では、大人も子どもの感性を大切にしなければならぬし、子どもの感性を共有することを増やしていくべきだと思います。



今年度のステップアップセミナーは、昨年に引き続き現役消防士（消防隊員・救急隊員）、現役中学校教諭などの各種公務員をはじめ、青年海外協力隊経験者や JICA と本学とのボランティア連携事業経験者など、国内のみならず海外で活動することも意識させる内容とした。また、一般企業に就職した学部卒業生や、現役内定（企業）取得者、教員採用試験合格者にも協力を仰ぎ、学生に身近な存在からのアプローチも試みた。

本講座の目的は、次年度から就職活動を開始する 2 年次生に、今何を準備しておくべきかを考えさせることにある。この講座を機に、一人でも多くの学生が自分自身を見つめる力を身につけ、充実した就職活動を開始し、希望する道に進んでくれることを願っている。

## 講師一覧

- 第 1 回 (9 月 14 日) ガイダンス・一般常識力テスト
- 第 2 回 (9 月 21 日) コンピテンシーテスト
- 第 3 回 (9 月 28 日) 講師：小幡進悟 氏  
(現役中学校教員 / 平成 24 年度卒業生)
- 第 4 回 (10 月 5 日) 本学の就職・進路支援の実際（就職進路支援センター）
- 第 5 回 (10 月 12 日) 講師：鐘井佑真 氏  
(福岡市消防・救助隊 / 平成 22 年度卒業生)  
講師：平野 温 氏  
(福岡市消防・救急隊 / 平成 26 年度卒業生)
- 第 6 回 (10 月 19 日) コンピテンシーフォローアップセミナー：松田愛子 氏（株式会社リアセック）
- 第 7 回 (10 月 26 日) 講師：道下 亨 氏  
(アビスパ福岡株式会社 / 青年海外協力隊経験者 / 平成 14 年度卒業生)
- 第 8 回 (11 月 2 日) 講師：宮成麻衣 氏  
(西南学院中学校・高等学校 / 平成 25 年度卒業生)
- 第 9 回 (11 月 9 日) 講師：藤野 友哉 氏  
(アルファコミュニケーションズ / 平成 22 年度卒業生)
- 第 10 回 (11 月 16 日) JAICA・ポリビア派遣経験者による報告  
(サッカー部 3 名・野球部 3 名)
- 第 11 回 (11 月 30 日) 講師：秀 泰二郎 氏  
(福岡大学スポーツ科学部助教)
- 第 12 回 (12 月 7 日) 現役学生による講義：講師：後間秋穂 氏  
(現役学生による就活体験 / 健康運動科学課 / 沖縄テレビ放送株式会社内定)
- 第 13 回 (12 月 14 日) 3 年生として就職活動をどのように取り組むのか？  
(就職進路支援センター)
- 第 14 回 (12 月 21 日) 一般常識力テスト及びまとめ

## 受講者レポート

### 第3回 ステップアップセミナー

講師：小幡 進悟氏（平成 24 年度卒：現役中学校体育教員）

教員に必要なものは、情熱、力量、人間力であり、それらを磨くために、今大学に通っていると思う。自分も人間力を高めるために、日頃からの生活習慣や態度を考えながら生活していきたい。また早め早めの教員採用試験対策をやっていきたいと思う。



### 第5回 ステップアップセミナー

講師：鐘井 佑真（平成 22 年度卒：救急隊）、平野 温（平成 26 年度：救急隊）。

お二人は現役合格と卒業後 2 年目で合格と異なる形での合格だけれど、共通して言えるのは、学生の時期から消防士になりたいと志願していたという事でした。早く自分のやりたいことを見つけて、強い意志で就活に挑みたいです。

### 第7回 ステップアップセミナー

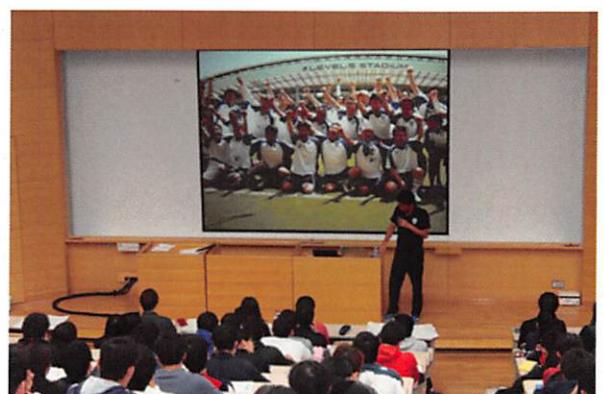
講師：道下 亨（平成〇〇年度卒：アビスパ福岡株式会社 青年海外協力隊経験者）

経験は大事だということがわかった。これから色んなことにチャレンジして成功、失敗することで学べると思うので、色んなことにチャレンジしたい。

### 第10回 ステップアップセミナー

講師：JAICA・ポリビア派遣経験者（サッカー部・野球部）

みんな共通して言うのが色んな経験をして大学生活で何か 1 つでも残せるものを見つけるということなので自分も残りの 2 年間頑張りたい。



## 団体の部

### 〈なぎなた部〉

第 56 回全日本学生なぎなた選手権大会 団体の部 第 2 位

山内 彩加 (GH 4) 安藤 万莉 (GH 4) 草野 汐梨 (GS 2)

坂本 優 (GH 1) 世利 優衣 (GS 1)

### 〈新体操競技部 男子〉

第 70 回全日本新体操選手権大会 男子団体総合 第 3 位

村上 祐亮 (GS 4) 八木 洸征 (GH 4) 福村 侑大 (GH 4)

原田 政樹 (GS 3) 岸本 龍典 (GS 3)

### 〈陸上競技部〉

第 101 回日本陸上競技選手権リレー競技大会 男子 4×400m R 第 3 位

好岡 郁弥 (GS 4) 三浦 寛史 (GS 2) 松清 和希 (GS 2)

## 個人の部

### 〈陸上競技部〉

片山 晴日 (GS 4) 2017 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子 400mH 第 3 位

天皇賜盃第 86 回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子 400mH 第 3 位

好岡 郁弥 (GS 4) 天皇賜盃第 86 回日本学生陸上競技対校選手権大会 男子 400m 第 3 位

太田 亜矢 (GS 4) 第 33 回静岡国際陸上競技大会 女子砲丸投 第 1 位

第 101 回日本陸上競技選手権大会 女子砲丸投 第 2 位

2017 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子砲丸投 第 1 位

天皇賜盃第 86 回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子砲丸投 第 2 位

アジア陸上競技選手権大会 (インド) 女子砲丸投 第 3 位

吉川 奈緒 (GS 4) 2017 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子ハンマー投 第 3 位

徳本 鈴奈 (GS 3) 天皇賜盃第 86 回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子走高跳 第 3 位

尾山 和華 (GS 1) 2017 日本学生陸上競技個人選手権大会 女子砲丸投 第 3 位

第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 女子砲丸投 第 1 位

筒江 海斗 (GS 1) 第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 男子 400mH 第 1 位

奥濱 練真 (GS 1) 第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 男子走高跳 第 2 位

香嶋 隼斗 (GS 1) 第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 男子三段跳 第 3 位

廣田 歩夢 (GS 1) 第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 男子円盤投 第 3 位

神田 菜摘 (GS 1) 第 33 回 U20 日本陸上競技選手権大会 女子走高跳 第 3 位

### 〈柔道部〉

後迫 孝誠 (GS 3) 平成 29 年度全日本学生柔道体重別選手権大会 男子 100kg 級 第 2 位

立川 莉奈 (GS 3) 第 29 回ユニバーシアード競技大会 (台北) 柔道日本代表 第 1 位

講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 女子 52kg 級 第 2 位

原田 誠丈 (GH 3) ロシアジュニア国際大会 (ロシア) 男子 66kg 級 第 3 位

#### 〈レスリング部〉

倉中 孔大 (GS4)	第43回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会	男子フリースタイル 125kg級	第3位
田代 拓海 (GS3)	明治杯全日本選抜選手権	男子フリースタイル 57kg級	第3位
執行 優大 (GS2)	JOCジュニアオリンピックカップ 全日本学生選手権	男子フリースタイル 96kg級	第3位
		男子フリースタイル 97kg級	第3位
関下 由希 (GS2)	全日本社会人選手権	女子フリースタイル 69kg級	第3位

#### 〈サッカー部〉

永石 拓海 (GS4)	第29回ユニバーシアード競技大会 (台北)	サッカー日本代表	第1位
-------------	-----------------------	----------	-----

#### 〈体操競技部〉

村岡 潤 (GS4)	第7回アジア体操競技選手権大会 (タイ)	団体	第3位
		個人総合	第6位
内田 隼人 (GS2)	第7回アジア体操競技選手権大会 (タイ)	団体	第3位

#### 〈ハンドボール部〉

末岡 拓美 (GS1)	第7回男子ユース (U-19) 世界選手権 (ジョージア)		第8位
-------------	-------------------------------	--	-----

### その他：全日本選手権関係

サッカー部	第66回全日本大学サッカー選手権大会	ベスト8
女子バレーボール部	全日本バレーボール大学選手権大会	ベスト8
体操競技部	第71回 全日本学生体操競技選手権大会 男子団体総合	第5位
男子ハンドボール部	高松宮記念杯 全日本学生ハンドボール選手権大会	ベスト8
女子剣道部	第36回全日本女子学生剣道優勝大会	ベスト8
ソフトテニス部	全日本大学ソフトテニス王座決定戦	第3位

### 教員採用試験

#### 福岡県中学校

日高由貴、秋吉美穂、里村 昭、小野琢郎

#### 福岡市中学校

松尾美沙、小野琢郎、溝上雄大、深川功樹

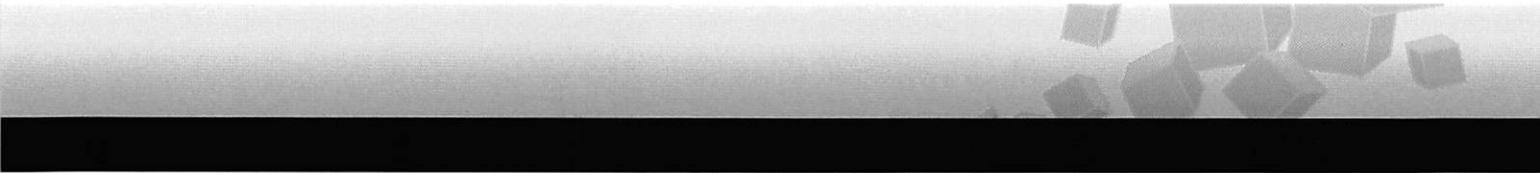
### 健康運動指導士及び実践指導者認定試験

#### 健康運動指導士

井上芙弥子、溝田晴菜、遠藤 薫、田中璃己、山本良輝、古藤純太

#### 健康運動実践指導者

丸山みなみ、増本亜美、大迫泰希、中原未央、林田明香里、本田紘基、二神彩花、田川茉理



平成 29 年度「福岡大学 暫定的教育予算」  
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

---

発行 平成 30 年 3 月 31 日  
編集 田中 守 米沢利広 乾 眞寛 布目 寛幸 桧垣 靖樹  
柿山 哲治 築山 泰典 坂本 道人 野口 安忠 今村 律子  
発行者 福岡大学スポーツ科学部  
福岡市城南区七隈 8 丁目 19 番 1 号  
092-781-6631 (代表)  
印刷 有限会社 新幸印刷

---

<http://www.spo.fukuoka-u.ac.jp>

